

平成 22 年 9 月 17 日

各 位

日本農産工業株式会社

## 平成 22 年 10～12 月期の畜産配合飼料価格について

### 畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 22 年 10～12 月期の畜産配合飼料価格について、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 22 年 7～9 月期の価格に据え置くことを決定致しました。

### 飼料原料・外国為替情勢について

#### 1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 12 月限は $\phi$  480/ブッシェル前後での取引となっています。とうもろこし相場は、ロシア・東欧の早魃による小麦大幅減産見込みおよびロシアの年内穀物輸出禁止を受けて上昇に転じました。さらに、米国産とうもろこしの単収減少による需給逼迫予想から相場の上昇が懸念されます。

#### 2. 副原料（植物蛋白原料）

米国産大豆は豊作見込ですが、中国の旺盛な大豆輸入が続いていることから、シカゴ定期大豆期近相場は、 $\phi$  1,000～1,050/ブッシェルの範囲で推移しています。シカゴ定期大豆粕期近相場については、\$ 300～310/ショートトンで推移していますが、ドル安円高が進んだことにより、10～12 月期間渡し条件の国内大豆粕価格は 7～9 月期間とほぼ同水準となる見込みです。

#### 3. 海上運賃

米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃は、中国の輸入動向により上下する状況が続いており、\$ 70 台での取引となっています。中国向け大豆を中心に、米国からの輸出が好調なことから、輸出港の荷役能力は限界に近づいており、米国とうもろこし輸出諸掛費用が高騰しています。

#### 4. 外国為替

景気の減速に伴い、米国当局は低金利政策を当面維持する方針を発表しています。金融市場では日米間金利差が縮小し、これによりドル売り円買いが進んでいます。また、一時沈静化していた欧州各国の信用問題が再燃しており、ユーロに対しても円が買われています。直近では 85 円/\$ 前後での取引となっています。

---

（お問合せ先） 日本農産工業株式会社 飼料販売企画部 福岡（TEL 045-224-3704）